

# ゆるキャラを使ったまちおこし —栃木県宇都宮市の事例—

## 1. 導入

近年「ゆるキャラ」と呼ばれる「ゆるいキャラクター」が様々な地方自治体や企業などでマスコットキャラクターとして使用されるようになった。新語・流行語大賞には、2008年に「ゆるキャラ」がノミネート、2013年に「ご当地キャラ」がトップテン入りするなどその勢いは衰えを見せていない。そんな中、宇都宮大学があるここ宇都宮市においても、「ミヤリー」というゆるキャラが宇都宮市のPRに奔走している。本論文ではこのキャラクターに注目しゆるキャラとまちおこしとのかかわりについて考察していくこととする。

## 2. ゆるキャラの定義

「ゆるキャラ」の提唱者であるみうらじゅん氏は2009年にあるキャラクターが「ゆるキャラ」として認められるための条件として、以下の三か条を挙げている。

- ① 郷土愛に満ち溢れた強いメッセージ性があること。
- ② 立ち居振る舞いが不安定かつユニークであること。
- ③ 愛すべき、ゆるさ、を持ち合わせていること。

条件①はゆるキャラが地域活性化を目的として創作されたキャラクターでなければならないこと、条件②は中に人間が入った着ぐるみの姿のゆるキャラの動きを指しているものと考えられる。そして条件③ではキャラクターの持つ特性について述べたものである。

## 3. ミヤリーについて

ミヤリーは2006年4月1日の市制110周年を記念して全国からの公募と市民投票により誕生し、市の花であるサツキの冠をかぶった妖精をモチーフに宇都宮の「ミヤ」と妖精を表す「フェアリー」から「ミヤリー」と名づけられた。2011年7月からは宇都宮市特別PR担当として、宇都宮市のPRのため市内外を駆け回っているミヤリーは、一定の基準を満たし市長からの承認が得られれば様々な形で活用することができる。ミヤリーの具体的な活動内容としてはSNS（オフィシャルブログ「ミヤリー日記」、Twitter、FaceBook）の使用を通じた活動、市内外での出張PR活動などがある。またミヤリーのスケジュールは「宮カフェ」ホームページにて月ごとに確認が可能となっている。

## 4. 定例活動における取り組み

ミヤリーに実際に会うための最も有効な手段として、ほぼ毎週行われている定例活動がある。この活動は毎週火曜日に、ミヤリーが宇都宮市内にあるパルコ、ララスクエアのいずれかに出没してファンや通行人と写真撮影や交流を行うという活動である。

今回のレポート執筆にあたり、執筆者は2015年12月1日に行われたパルコでの定例活動を見学してきた。この日はミヤリーだけでなく栃木県障害福祉課所属のゆるキャラ「ナイチュウ」も一緒。ミヤリーはサンタクロース、ナイチュウはタキシードのコスチュームを着用。二体はハイタッチや様々なポーズを取ったりして記念撮影に応じ、その場に集ま

った20名程度の人々と交流していた。その間スタッフはミヤリーの紹介パンフレットをその場にいる人に配るなどしていた。また活動後にはファンからもらったプレゼントを画像付きで載せるなど SNS の更新も欠かさない。宇都宮市の PR の為熱心に活動しているミヤリーのひたむきさが垣間見られた。

#### 5. 今後のミヤリーと宇都宮市の関わりについて

ミヤリーをはじめとするゆるキャラたちは地域振興のため、日々熱心に活動している。そのゆるキャラが人々に受ければ大きな経済効果を生み出す。たとえば、元祖人気ゆるキャラともいえる熊本県の「くまモン」は2012年のキャラクター収入は300億円とも言われている。その点では、くまモンのキャラクター商品を生産する地元の企業や地域はある程度の恩恵を受けたと言えるだろう。

しかし、こうしたゆるキャラの人気に対して越川靖子は次のような疑問の声を投げかけている。

キャラクターばかりが先行し、地元やその特産物の認知には、思うようにつながっていないのではないかといえる。売りたいものは地元やその県の知名度であってキャラクターはその手段・道具であるはずなのに、地元企業や自治体が潤うことに関心が先行しすぎているように見受けられる。本来ゆるキャラの商品を買ってもらうことではなく、それを生んだ土地を知って・理解して・内外での関係を築きたいのではないのだろうか。

1

この指摘をミヤリーに関して当てはめてみると、確かにうなずける点がある。ミヤリーの関連グッズを調べてみると、公式 HP で目立って PR されているのはかわいらしいキャラクターグッズであって、宇都宮市の特産品などにミヤリーのロゴ等が用いられているものではない。これではミヤリーというキャラクターの PR が宇都宮市の PR に先行しているという見方もできてしまう。また SNS 等の利用に関しても、ミヤリーはファンとのやり取りを中心に行っており宇都宮市の特産品の PR 等に関し投稿をしていることは珍しいのが現状だ。宇都宮市はこのような疑問の声をしっかりと受け入れ、今一度ミヤリーの存在意義や宇都宮市のまちおこしの関わり方に関してしっかりと見直しをしてほしいものである。ミヤリーが単なるかわいらしいキャラクターとして存在するだけでなく、宇都宮市のまちおこしのために明確な役割を担うことができれば、ミヤリーというゆるキャラを使った宇都宮市のまちおこしがより効果的に行われていくだろう。

---

<sup>1</sup>越川靖子「キャラクターとブランドに関する一考察—地域振興とゆるキャラ発展のために—」『湘北紀要』第34号,湘北短期大学,2013年,161-176ページ。